

現状と課題



平成**29**年度 自立支援協議会第**1**回全体会 2017. 11. 10

宝塚市障害者就業・生活支援センター—あともむ

所長 竹内 誠

センターの紹介

住所・・・宝塚市売布東の町12-9 こむの事業所2階

時間・・・9:00～17:00。時間外、土、日曜は応相談。

支援ワーカー4名、所長。



センター設立の経緯

・平成5年

通所授産施設「ワークプラザ宝塚」を開設し、開設時より、宝塚市からの補助金で「職域開発指導員」が1名加配される。

知的障がいのある人を雇用して貰える、企業を開拓していく。

施設では「働く」ための準備訓練をして、企業への就職者を送り出していく。

宝塚市として「定着支援事業」を新設して、職場訪問などをして本人や企業を支援していった。

・平成16年

ジョブコーチ(職場適応援助者)をワークプラザ宝塚に配置して、「就労支援担当課」を新設する。
職員を3名配置する。

・平成17年

宝塚市の単独事業として、宝塚さざんか福祉会が委託を受け、障がい種別にこだわらない支援機関として「宝塚市障害者就業・生活支援センター あとむ」を開設する。

・平成17年～

ハローワーク、障害者職業センター、健康福祉事務所（保健所）、宝塚市障害福祉課、商工勤労課、教育委員会、商工会議所、労働組合、当事者や家族の団体、学識経験者、市民団体等から代表を送り出して頂き、「運営委員会」を、年2回開催している。当センターの半期ごとの事業報告を行うと同時に今後の具体的な取組みについての意見交換をして頂いている。

センター開設当初は、旧勤労市民センター内に事務所を設置。その後、平成23年5月以降は現在の福祉コミュニティプラザ内のこむの事業所に移転。

【 センター名「あとむ」の由来 】

あきらめず とどまらず むかっていこう



“保護”“安心”だけではなく、全ての人が地域生活に向けてチャレンジしていこう。



**AKIRAMEZU TODOMARAZU MU
TTEIKOU**

ローマ字ではATM。町中の銀行にある現金自動支払機と同じように「いつでも」「どこでも」「必要なだけ」サービスができるようにしていきたい。



「鉄腕アトム」のように頼れるセンターを目指す。

就業・生活支援センターとは

- ・障がいのある方の暮らしている「身近な地域」において、就業面と生活面の一体的な相談・支援を行う地域の拠点となるセンターとして設置される。
- ・就業及びそれに伴う日常生活上の支援を必要とする障がいのある方に対し相談や専門機関、福祉サービスの紹介、職場訪問等を実施する。
- ・平成14年から国事業で「支援センター」がスタートしていたが、複数の市町村をまたいで設置されるもので、阪神間では人口が多いため利用しにくい。

・宝塚市は市単独事業で「支援センター」の設置を決める。阪神間で一番最初に出来た市単独のセンターである。

・センター内には訓練等の設備を持たず、労働、福祉、医療、保健、教育など、様々な既存の社会資源・機関をネットワークでつなぎ、障がいのある方の就業と生活を「総合的に」支援することを目指す。

・企業からの雇用をはじめ従業員の雇用管理、職場復帰支援等の相談にも応じている。

・いわゆる、「職業紹介」業務は行っていない。

事業内容

事業内容・・・生活相談・・・衣食住の相談(一人暮らしやグループホーム、ホームヘルパー)、お金の相談(生活保護、障害者年金)

就業相談(企業で働く、就労継続支援で働く)、職業準備訓練(就労移行支援、職業能力開発校)、職場定着(ジョブコーチ支援、面談)、ネットワーク構築(福祉事業所、様々な支援機関の協議会)

事業の対象者・・・宝塚市在住の身体・知的・精神の手帳のある方、発達、高次脳機能、難病、依存症、疾患等のある手帳を持たない方。

医療機関、福祉事業所、学校からの相談。

企業からの相談。

- 全登録者数・・・**946名**(平成**28**年**8**月**1**日)
- 平成28年度新規登録者数・・・**82名**
(平成27年度新規登録者・・・名)
- 平成28年度就職者数・・・**87名**
内就労継続支援**A**型・・・**41名**
(平成27年度就職者数・・・名
内就労継続支援**A**型・・・名)

・平成28年度
当事者・家族等(電話・来所・メール)相談**5004**件
(平成27年度

訪問(企業、福祉事業所、支援機関)**1511**件
(平成27年度

企業・機関(電話・来所・メール)相談
4045件
(平成27年度

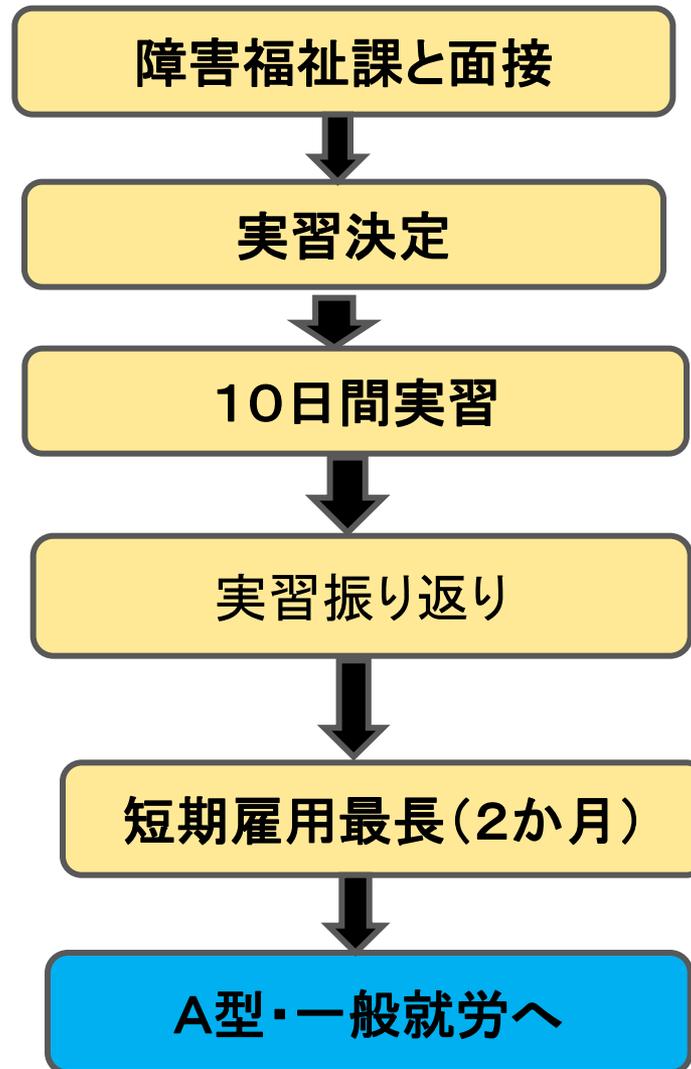
いずれも過去最高を記録

支援の流れ

予約→初回面談→登録→情報提供

- ・**相談担当**・・・日常生活、地域生活に関する相談、福祉事業所見学、年金申請の書類作成、通院同行、手帳申請、関係機関との連絡調整、ケース会議、ネットワーク会議の調整
市役所実習、短期雇用

市役所体験実習・短期雇用



新しい事業(提案)

宝塚市内の「民間企業」における職場体験実習事業の新設を目指して

- ・現在は宝塚市庁舎等での体験実習は制度化しているが、更に多様な職種、職場での体験実習が実施できるようにしたい。
- ・市内の企業等での体験実習により、当事者にとっては貴重な経験になり、企業にとっては啓発であったり、雇用の機会拡大に繋ることが期待される。
- ・受入企業には、宝塚市から助成金を支給する。

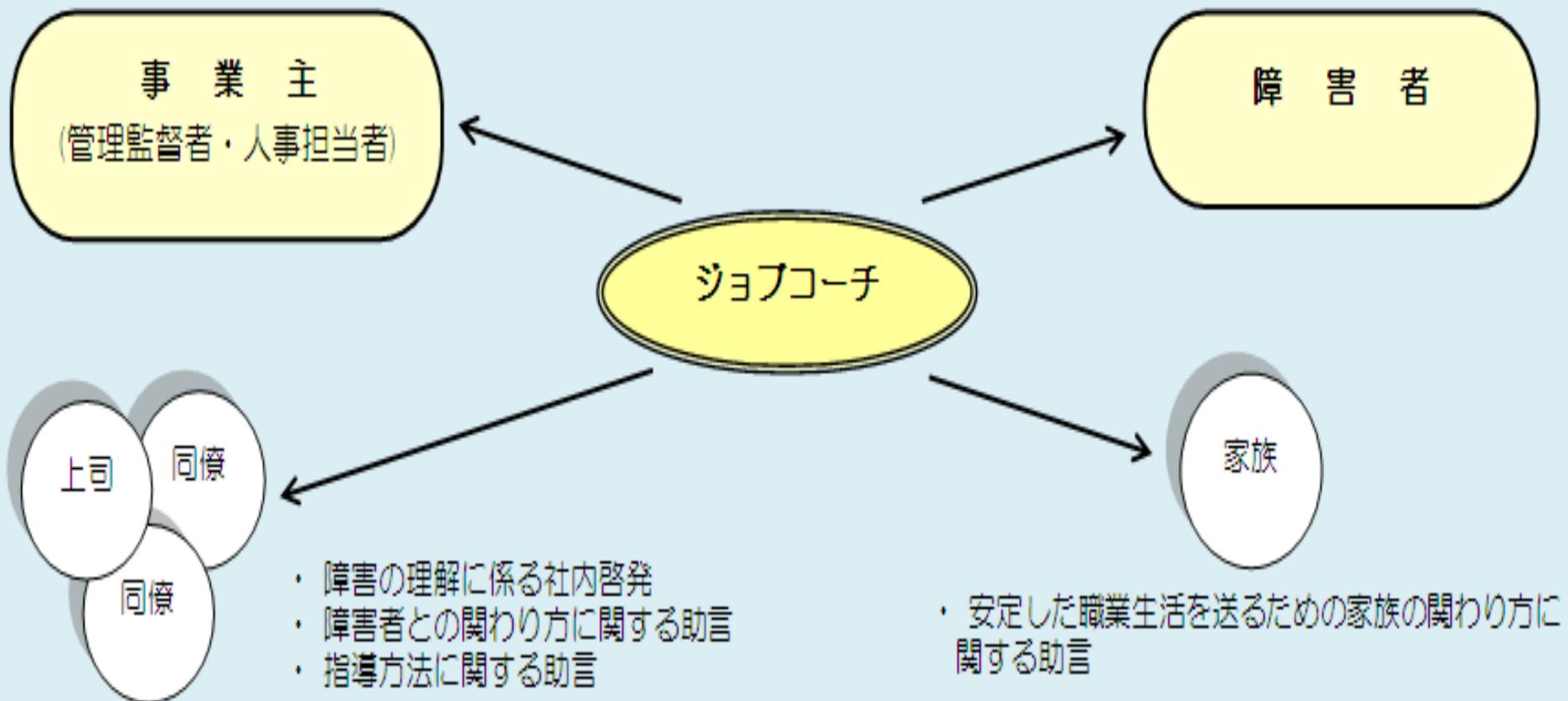
・就労担当(ジョブコーチ)

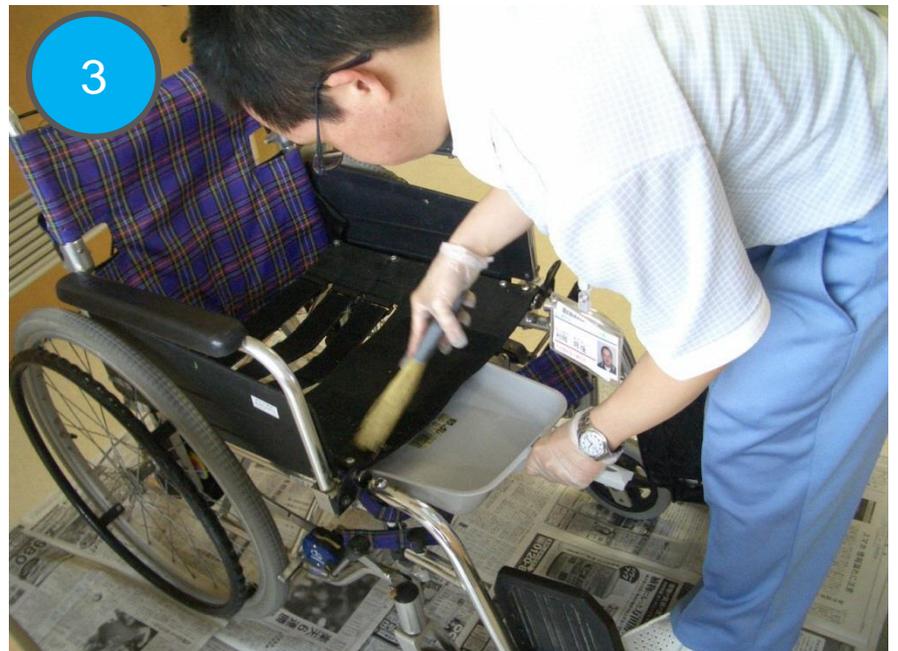
- ・就業に関する相談支援→特別支援学校、障害者職業能力開発校等の進路相談会(4者懇談会)
- ・就職に向けた準備支援→ハローワーク求職登録、障害者職業センターでの職業評価(適性検査)同行
- ・就職活動の支援(ジョブコーチ支援)→面接同行、雇用前支援(実習同行)、事業所に対する助言
- ・職場定着に向けた支援→雇用後支援
- ・離職者支援(雇用保険の申請、再就職)
- ・関係機関との連絡調整、ケース会議

ジョブコーチ支援とは

- ・ 障害特性に配慮した雇用管理に関する助言
- ・ 配置、職務内容の設定に関する助言

- ・ 作業遂行力の向上支援
- ・ 職場内コミュニケーション能力の向上支援
- ・ 健康管理、生活リズムの構築支援





課題と対処①

課題

- ・本人や家族の状態、相談内容が多岐にわたり、課題が複雑化している。(児童や高齢者虐待のケース、**DV**相談、生活困窮者、不登校やひきこもりなど)

対処

- ・様々な福祉支援制度の学習。
- ・人格障がい、高次脳機能障がい、難病、ひきこもり支援などについて理解するため様々な研修への参加。
- ・企業からの相談に応えるために、産業保健分野の支援機関とも連携。

課題と対応②

課題

手帳のない方や自宅から出にくい段階の方も多く、方向性が定まり、職業準備訓練も複数年にわたるため継続的な支援が必要になっている。

- ・支援期間の定めを無くしている。
- 出来るだけ担当者が変更にならないように、法人組織としても協力して貰っており。

課題と対応③

課題

増加する相談者に対して、支援ワーカーが足りない。

- ・所長、ジョブコーチ全員で分担して相談に入り、手分けして対応していく。常に支援経過を報告し合って共有を図る。

課題と対応④

課題

- ・増え続けるジョブコーチ等による定着支援。必要に応じて、何年経っても訪問していくことがある。

対応

全員の支援ワーカーが全ての対象者について把握するよう努め、出来るだけ企業に訪問をするなどして情報共有に努める。

課題と対応④

課題

・「クローズ就労」の場合や雇用後に障がいがあることが分かった場合などの支援の難しさ。

対応

対応については、全体会議で協議を行い、本人への不利益を最大限考慮して、職場内での努力も促す。同時に、企業には「合理的配慮」への理解を求める。

対処の限界

- ・ 支援ワーカーの育成や増員。
- ・ 社会福祉法人宝塚さざんか福祉会の負担。
- ・ 宝塚市との協力が不可欠

まとめ

センター内では…

- ・毎日全員に報告、
- ・毎朝のミニカンファレンス
- ・月1回の全体会議
- ・全員で全てのケースを共有する。

センター外では…

- ・様々な関係機関や団体等とは、常に「顔の見える」、「信頼される」支援連携作り。
- ・企業と福祉、機関と機関をつなぐ役割。

まとめ

基本は…

・制度が目まぐるしく変わり、支援施策が増えても、我々はそれに振り回されるのではなく、
相談に来られた方を「障がい者」と一括りにするのではなく、その方を「障害特性」で語るのではなく、「**人として**」接していくということを忘れない。

ご清聴ありがとうございました

